

88 改めて、「教育（ひとづくり）」と「地域づくり（まちづくり）」の関係を問う?!

堂本 彰夫

(1) 偶然?過日のセミナー（第27回）から見えてきたもの?!「あること」がぶつかり合っている?!

ある意味予期せぬ事態であったが、過日（8/28）の「教育協働セミナー」（第27回）で、いみじくも「教育（ひとづくり）」と「地域づくり（まちづくり）」の関係を考えさせる議論が浮上してきた!直接の発端は、ゲスト参加していただいた、島根県のYさんと、参加者の一人、北海道のGさんとのやり取りにあったが、S大学の社会教育主事講習（オンライン型）のあり方（対象や内容構成?）に関わって、社会教育主事養成の方向性（受講者のターゲット?）を、「教育（ひとづくり）」に焦点を当てるのか、それとも「地域づくり（まちづくり）」に焦点を当てるのかといった議論となったということである?!

すなわち、前者（「教育（ひとづくり）」）は、昨年度からスタートしている「社会教育士」の養成に期待を寄せるもの、後者（「地域づくり（まちづくり）」）は、従来の「(発令)社会教育主事」の養成に期待を寄せるもの、というような構図?で捉えられていたということであるが、「(発令)社会教育主事」と「社会教育士」の養成の関係が、このような形での議論となった(る)ことに、どこか違和感?を感じながら、私としては、ここで、改めて、「社会教育主事講習」のあり方、引いては、今後の社会教育（行政）のあり方を考える上で（本当は、それだけではないのだが!）、「教育（ひとづくり）」と「地域づくり（まちづくり）」の正当な（本当の?）関係を、実践者・関係者に分かってもらわなければいけない?そういう思い、感情に駆られた次第であったわけである?!

ちなみに、前者の、「社会教育士」の養成に期待を寄せるものとは、昨年度?から始まったS大学の社会教育主事講習（オンライン型）の独自路線（ウリ?少なくとも今のところ?）と言えるもので、S県が取り組んできた「高校魅力化プロジェクト」を発展させた?形の、「教育魅力化ヴィジョン」の推進役・オーガナイザーとしての「社会教育士」の養成が目指されているということである?!言わば、そうした「教育（ひとづくり）」のための人材養成ということである?!例の「CS」や「地域学校協働本部事業」等にあっては、ある意味喫緊の方策と言ってよいのかもしれない?!

要は、従来の、「教育委員会事務局に置く」ということが前提とされている「(発令)社会教育主事」よりも、それこそ多種多様な立場・職場で、人々の「生涯学習」を支援・鼓舞することが期待される「社会教育士」の方が、それ（「教育魅力化ヴィジョン」）の推進に向けては、より有効（得策）なのではないのかということであろう?!ましてや、「高校魅力化→教育魅力化プロジェクト」の理解者・推進役の養成ともなれば、その方が、より説得力があることになる?!おそらく、そういうことであろうが、受講希望者、とりわけ学校教育関係のそれにあっては、「オンライン型」という利点もあってか、全国から多くの応募があったということでもある（それだけ、そちらの方のニーズもあるということである?）!

しかも、若い学生対象の「養成課程」での養成から、社会人（現職者）対象の「講習」での養成へという形で、その地域のニーズに応えるべく、新たな形での社会（地域）貢献を目指す、地方の国立大学にあっては（ただし、その実施主体が、いわゆる教育学部/教員養成学部ではないこともある!K大学では、まさにそうである!これは、ある意味残念ではある?）、自らの責任と独自の役割（ウリ?）をアピールすることは、まぎれもなく重要な課題でもあるわけである（まだ、そのように動いていないところも、多々あるようではあるが?また、動けないところもある?）?!

(2) 新「社会教育主事講習」の隘路（宿命?）?!そこで、見据えていなければいけないことは?!

ということで、大学等（北海道のように、道教育委員会の実施ということも含めて!）での主事講習が、新たな形で実施・展開されることは、それ自体は良いことであると思われるが、結果?として、「(発令)社会教育主事」と「社会教育士」の分断的養成につながっていくことになれば、それは、また別な意味で、大変な事態を迎えることになる?!そして、それは、ある意味、冷静に捉えれば、当初から考えられ得ることであり、その分断的養成に陥らないための対策（戦略）が講じられなければ、社会教育（行政）の、ある意味起死回生の策である「社会教育士（称号）の賦与」も仇となるかもしれない?と主張してきている私にとってみれば、早速、由々しき状況が出来てきているとも言えるわけである?!

ただし、問題は、何度も指摘してきているように、講習自体は一つのものであり、そのカリキュラム（科目構成・単位数）は同一のものなのである!つまり、それは、変わらず「(発令)社会教育主事」の資格要件なのであり、特別な「社会教育士（称号）」の養成カリキュラムでもないのである!そこに、そもそも無理（矛盾?）があるわけでもある（現実的な対応策としては、それしか方法はなかったとも言えるが?）?!ちなみに、これについては、「(発令)社会教育主事」と新たな形の「社会教育士」の微妙な関係について論じた、私のHP上での論稿「教育協働への道 80」（「教育論考～教育協働への道～（総集版）Part 3」所収）があるが、それが、こっそり（否、ひっそり?）と、『(大判)社会教育』の9月号に掲載されている（L・NET ワーカーズ通信 提言）!依頼原稿ではなかったがために、そういう扱いになったのであろうが、一人でも多くの人に読んでもらえるのであれば、もちろ

ん大歓迎である！一瞬びっくりもしたが、編集長であるKさんの思い（配慮？多くの人に見てもらいたい！特に〇〇に？）に、ある意味感謝でもある？！

それはともかく、実際に、同じ「社会教育主事講習」でありながら、従来の「(発令) 社会教育主事」の養成に主眼を置くものと、新たな形の「社会教育士」の養成に主眼を置くものとに分かれてしまえば、まさに、私が危惧している、「(発令) 社会教育主事」のさらなる「縮減化」に拍車を掛けるものとなる？！そして、それは、本家本元の「社会教育(行政)」の消滅、あるいはさらなる二極分化を招くことにもなる？！何故なら、繰り返すように、そのことに責任をもって対応できる(もちろん実力と実績が伴うが！) 行政部署(専門スタッフ) がなければ、今様に言えば、「持続可能な取り組み」は実現出来ないからである？！

尤も、それが、いわゆる「首長部局」にあった方がいいのか、「教育」に責任を有する「教育委員会(事務局)」にあった方がいいのか、現状では、なかなか判断は難しいが(現に、どちらのパターンも存在する！)、理念的(法的にも?) には、もちろん後者である？！そして、それを保証・実現するのが、私の言う「教育協働」の理念であり、そのフレームワークなのであるが、まだまだその具体的なイメージや実感が伴っていない？！

(3) 「教育(ひとづくり)」と「地域づくり(まちづくり)」は、「循環」させなければ、その成果は半減する？！

ところで、何はともあれ、そこでは、共有すべき目標・課題は何か？それが見えていなければ、取り組みがチグハグとなることは必定である？！そしてまた、各自の、思いの取り組みとなる？それがまた、特定の個人の努力(苦悩?) に墮してしまう？もちろん、それでも、ないよりはよいのであるが、件の「SDGs」の取り組みからも明らかなように、客観的な事態は、そうしたレベルでの対応では、まったくおっつかないのである(その意味では、岡山市等の取り組み(「ユネスコ学習都市」)は、評価されよう！)？！

とにかく、この辺りのことについては、私の過去の論稿を読んでもらえればよいのであるが、多くの人には、それ自体を求めることは酷であるし、ある意味失礼にもなるかもしれないので、ここでは、そのエキスのみだけでも示しておきたい！実は、それを可視化したものが、次頁の「教育(ひとづくり)と地域づくり(まちづくり)の循環構造図(曼荼羅図)」なのであるが(タイトルは違えているが！)、それは、一言で言うと、まさに、今回問題となった「教育(ひとづくり)」と「地域づくり(まちづくり)」の関係を、学校、社会教育、地域(家庭を含む)の関わりの中で俯瞰したものである！見て分かってもらえると思うが、決して「教育(ひとづくり)」と「地域づくり(まちづくり)」は別々のものではないし、ましてや対峙するものではないのである！

単純に言えば、上半分が、「教育(ひとづくり)」、下半分が、「地域づくり(まちづくり)」ということになるが、従来の社会教育(行政)は、まがりなりにも両方の部分に責任を負ってやってきたのである(脆弱な予算・スタッフ配置ながらも！)！しかしながら、諸状況の変化の中で、「地域づくり(まちづくり)」の部分は、「市民協働推進課」等の、いわゆる首長部局への権限移譲あるいは全面移行という形になっていたり(それが、ある意味「社会教育(行政)」の二極分化あるいは自然消滅?を招いているのでもある?)、今度は?、「教育(ひとづくり)」の方が、また別のベクトル(高校→教育魅力化)にシフトしたりして、限定された?「(発令) 社会教育主事」よりも、多種多様な形での「社会教育士」の活躍・参画が求められている構図となっている訳でもある(そこでは、従来の社会教育(行政)の力・役割が、ある意味等閑視されてきているとも言えるのである?)？！

私からすれば、真に不幸な?関係理解になっているということであるが、要は、その二つの方向性(ベクトル)は、決して分裂・対峙するものではなく、つながっている(循環ないし往還!)のである！そしてまた、その「教育(ひとづくり)」と「地域づくり(まちづくり)」は、そうしたつながり(循環ないし往還!)を求めているのである！しかも、双方共に「〇〇づくり」なのであるから、当然そこには、人々の思いと行動がリンクしているのである！さらに言えば、そこに、人々の交流・学習の成果が生かされるのである！

ただし、そこでの問題は、直接には、その双方がつながっているという実感が湧かない、見えないということである？！それぞれを担当する事務局(行政部署)が違うということが、その間接的な原因であるが(タテワリ行政の弊害?)、本質的な問題は、それに関係している人々が、そのことを実感する場面やしくみがないということである？！「市民協働」とか「地域学校協働活動」とか、スローガン(理想?)は、お互い知ってはいても、実際の事業や活動(内容やしくみ)に、そのことが反映されていないのである？！

結論からすれば、そういう状態を打破していく役割を担うことが期待されるのが、「(発令) 社会教育主事」であり、「社会教育士」であるわけであるが、どちらか一方では、そのことは難しい(あるいは偏る?)のである？！したがって、今後の講習においては、同じカリキュラムではあるが、思い切って(覚悟を決めて!)最初から、「(発令) 社会教育主事」と「社会教育士」の同時養成を目指し、彼らの存在が、いかに、これからの「教育(ひとづくり)と地域づくり(まちづくり)の循環」に必要なのかを明示していくことである！そして、可能ならば(否、絶対に可能である!)、最後の「演習」場面で、各々の役割を示すヴィジョンとか、計画を相互に出し合い、いかに、双方の「合力」を創り上げればよいのかを示すことである！名目的な「一元的養成」や単なる「分断的養成」(コース制等)は、分かり易いが?、事実上は、混乱を招くし、また、失うものも大きい？！講習を実施する大学等には、くれぐれも、そのことを分かって欲しいものである！

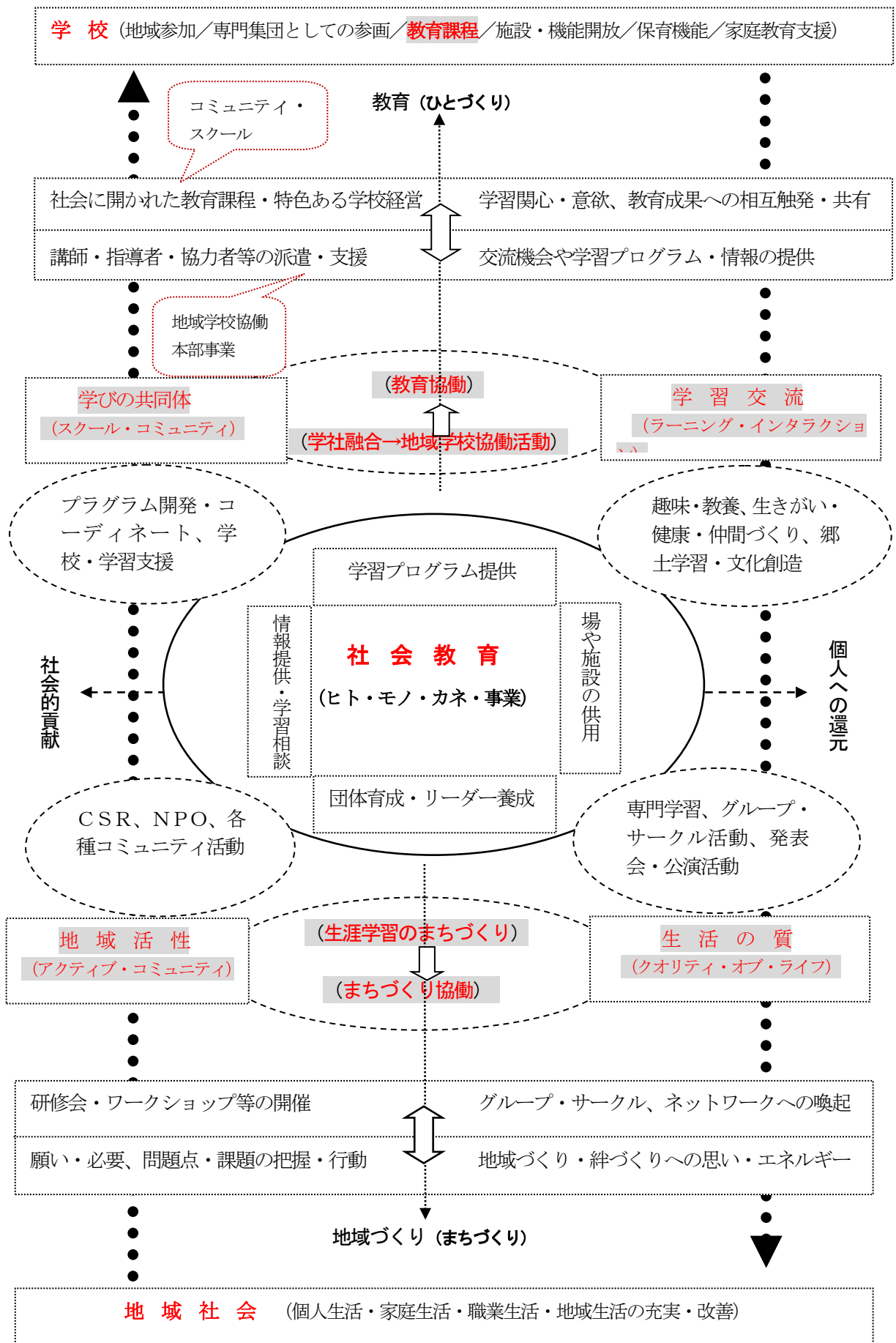


図2 促進・媒介機能に着目した(公的)社会教育における施策・事業の構造(改訂版)